



開 知小学校へ特産食材を提供



食材を受け取る橋本校長と手渡す小笠原指導員

J A六戸支店は11月15日、六戸町立開知小学校へJ Aおいらせ産の長いも10Kgとにんじん1Kgを寄贈しました。17日に行った学習発表会で、寄贈した農産物を使ったドーナツを同校PTAが作り、来校者へ販売しました。

食材寄贈のきっかけは、5月に食育の授業でJ Aの小笠原英幸指導員らが訪れた際、橋本真由美校長から学習発表会を行うドーナツ作りで材料の入手に苦労している話を聞いたことからJ Aでは子どもたちの笑顔のため、また地域貢献のため必要な野菜を提供することを約束し、今回の寄贈となりました。野菜を届けた小笠原指導員に橋本校長は「おいしいドーナツができそうです。子ども達も喜ぶと思います」と感謝の言葉をかけました。

青 年部、女性組織代表が農協経営者と意見を交わす

11月22日、J Aは青年部、女性部、あ根っこくらの組織代表がJ A常勤理事、子会社社長と意見を交わす「農協経営者と語る会」を開きました。各組織の代表は組織部員の増加に向けた地区イベントの企画や食育事業・消費宣伝に係る活動への助成などを要請しました。

青年部代表は購買事業のサービス向上と専門知識をもったJ A職員の養成について言及し、J Aは職員のスペシャリスト化を目指すとともに窓口対応の強化に取り組むと回答しました。また女性部とあ根っこくらの地域イベントへの出店や消費宣伝に関する活動の助成に協力し、各組織とともに特産やJ AのPRに今後も取り組むことを確認しました。

語る会はJ A自己改革の組員・地域住民との結びつきの強化として隔年で開いています。



意見を交わす組織代表



浪岡篤志さん

「10年後も元気な農業を」県青協代表として決意表明

J Aグループ青森は11月30日、第28回J A青森県大会を青森市で開きました。「10年後も元気な農業と地域をめざす」をテーマに、今後3年間で農業所得の増大・地域の活性化・経営基盤の強化と食・農・協同組合の理解醸成に向けた取り組みを行います。

また、J Aおいらせ青年部員で県J A青年部協議会副委員長の浪岡篤志さんが代表で決意表明を行いました。自身のこれまでの経歴をふまえながら「農業には食だけでなく景観を守る役割があり、未来へつなぐためにも10年後も元気に農業ができるようJ Aとともに励みたい」と約500人の前で決意を語りました。



決意表明する浪岡篤志さん

保 管管理を省力化

閉鎖した仔豚市場を飼料米貯蔵庫に



市場を改修し、飼料用米と大豆を保管

J Aは2017年7月に閉鎖した六戸仔豚市場を飼料用米・大豆の貯蔵施設に改修し、18年10月中旬から飼料用米約52トンと大豆の保管を始めました。主食用米倉庫の隣にあった市場を改修することで、主食用米と飼料用米などの貯蔵施設を集約し、管理の効率化につなげています。

旧市場の隣の七百低温倉庫では六戸地区の主食用米を保管し、飼料用米は約5Km離れた倉庫で保管していました。倉庫の老朽化や職員の配置などの作業効率を考え、仔豚市場を改修し飼料用米等貯蔵施設へと生まれ変わりました。



「あすチャレ！ 運動会」来場者へ長いもすいとんを提供

女性部三沢支部は、12月1日に三沢市国際交流スポーツセンターで開かれた東京2020オリンピック・パラリンピック関連事業の一環「あすチャレ！ 運動会 in Misawa 2018」の参加者等へ長いもすいとんを振る舞いました。

企業・団体等12チーム170人が参加するイベントで、三沢市の食の魅力や地元産食材を発信しようと女性部員4人が長いもすいとん200食を無料で提供しました。青森市から参加した男性は「長いもは大好きです」とおかわりし、200食が30分でなくなるほど好評でした。



来場者に提供する女性部員

酪 農部会 アイスクリーム作り

12月10日、酪農部会が乳製品試作研修を開きました。忙しい毎日を送る酪農部会の皆さんの交流の場で、専用メーカーで自宅用のアイスクリームを作りました。抹茶やチョコクッキーなどのフレーバーを試し、また今年はメンバーが増えています。ますます賑やかな交流会となりました。

